

清末小説から 105

2012.4.1

マティーアと『釦子記』……樽本照雄 1

《拊髀記》の原作……渡辺浩司14

傅兰雅“时新小说”征文参赛作者考(一)……姚 达兑21

清末小説から14 / 26

ページ数の関係で文献目録を少ししか掲載できませんでした、と書いたのです。どうやら紙媒体に印刷していたクセが抜けない。本誌は電字版ですから奇数ページで終わってもかまいません

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

釦子記 狄丁訳編。光緒三十四年
(一九〇八)刊。146頁

マティーアと『釦子記』

樽 本 照 雄

この1行があるだけ。「翻訳之部」に配置されるから狄丁が訳者の名前だ。出版社は、書かれていない。阿英は実物を所蔵していた。だから、刊年はあるのに出版社名が書かれていないのは、おかしい。ただし、勘違いをしたか、または出版社を印刷したページが破損していたとすれば、記述のしようがない。

この作品について、のちに補充説明がなされた。

増補版「晚清小説目」の附記には、つぎのような追記がある。

阿英と周越然の目録

『釦子記』という漢語翻訳作品がある。日本語に訳せば『ボタン物語』になるだろうか。この作品を知ったのは、阿英「晚清小説目」*1に収録されていたからだ。

以下のように書かれている(傍線は省略。うしろのページ数は阿英目録。以下同じ)。

「釦子記」(P.146)華美書局刊、線装本。178頁

阿英目録本文の146頁にある『釦子記』について、出版社を明記した。それらをあわせると、狄丁訳編『釦子記』が華美書局から1908年に刊行されたことがわかる。

華美書局はキリスト教関係の印刷所だ。しかし、これらを見ただけでは狄丁が誰をさしているのか、わからない。

阿英目録は、実物を手元において編集された。これが定説だ。誤記誤植はあるにしても原本を所蔵していることが疑われたことはないように思う。長期間にわたって、清末小説目録といえば阿英目録を意味していた。記述の詳細さ、収録規模の大きさもそうだが、実物によってというのが信頼性を裏付けているといえる。

『釦子記』についての追加文は、どういう意味か。

ひとつ考えられるのは、阿英は実物を所蔵して、のちに記述不足に気がついた。もうひとつは、あとで該書を手に入れた。このばあいは、異版かもしれない。最初から実物を見ていることは確かだろう。作品名、訳者、刊年、出版社などが判明していた。どちらにしても、原作が誰のどういう作品かについては、やはり不明のままである。

刊年をさかのぼると、阿英目録の前には、周越然「稀見訳本小説」(『版本与書籍』上海・知行出版社1945.8)がある。

三(五)釦子記十章、狄丁氏編、清光緒三十四年華美書局印行。118頁

阿英と周越然は、ともに『釦子記』の実物を所有してそれぞれの目録に収録したと考えられる。「十章」と詳しく書いているとか、発行元の名称が同じとか、いかにもそれらしい。

編訳者の表示には、「狄丁」と「狄丁氏」のふたつがある。阿英は、「氏」を一般的な敬称だと考えたのだろう。それを省略すれば、どちらも狄丁だ。出版社は両目録とも華美書局となっている。まぎらわしいが、1字が入れ替わった美華書局が別にあった。その誤植ではないかと考える人がいるかもしれない。実は、両者ともに実在した。

ひとつは、アメリカ長老派教会伝道印刷所(American Presbyterian Mission Press)である。漢語表記では美華書館と書かれることが多い(俗称:長老会書館)。

もう一方は、メソヂスト教会印刷所(Methodist Publishing House)だ。こちらの漢訳はいくつかあって、華美書館、華美書局、華美印刷所、華美印書館、上海華美書局などという。

もとの英語では区別している。しかし、漢語表記では区別するのがむづかしい。書館は書局とも書かれて一定していないように見える。漢語の名称が華美書局だから、メソヂスト教会印刷所である。

私は、『釦子記』という作品、書籍を見たことがない。手元に資料がないから、先行文献の説明をそのまま受け入れるしかない。周越然と阿英のふたりが、ともにその編訳者は狄丁(氏)だと書いている。疑問の出てくるはずもない。目録を

見ている限り、狄丁氏を除いては、別人が顔をだす余地はないのだった。

私が清末民初小説目録を編集しはじめた1980年代において、キリスト教関係の小説を研究する人は、ほとんどいなかった。周越然、阿英の目録に収録してあったから、かろうじて作品の存在が知られていたにすぎない。

『釘子記』の作者を間違っている、狄丁氏ではない、と指摘するのは、宋莉華の論文である。

宋莉華の著作

宋は、中国における外国人宣教師の翻訳活動を主題として研究をする*2。その着眼自体が新鮮だ。以前の論文も含めて、その成果が、『伝教士漢文小説研究』(上海世紀出版股份公司、上海古籍出版社2010.8 海外漢文小説研究叢書。略号[莉華10B]) だといえる*3。中国の研究界では珍しい部類に属すると思う。宋莉華が独自に掘り起こした資料も多数にのぼる。私の知らないことばかりだ。注目に値する研究である。

宋莉華はなにをどう指摘しているか。引用翻訳しよう。宋自身がおこなった史料発掘を紹介する文脈で、つぎのように書いている(冒頭の[-19]は頁数)。

[莉華10B-19] このほか現存する目録のなかのいくつかの誤りを正すことができた。たとえば、阿英『晚清戯曲小説目』、樽本照雄『新編増補清末民初小説目録』、陳鳴樹主編『二十世紀中国文学大典』など

はみな『釘子記』を収録しているが、すべて編訳者を「狄丁氏」にして誤っている。明らかに狄丁氏(Mrs.R.M. Mateer)と狄文氏(Ada Haven Mateer)を混同しているのだ。狄文氏はアメリカ宣教師狄考文(Calvin Wilson ^{ママ}Matteer, 1836-1908)の後妻であり、その著作には時に「麦体雅(マティ-ア)」と署名した。[此外, 還可以訂正現存書目中某些訛誤之處。比如阿英《晚清戯曲小説目》、樽本照雄《新編増補清末民初小説目録》、陳鳴樹主編《二十世紀中国文学大典》都収録了《釘子記》, 編訳者都誤作“狄丁氏”, 顯然是把狄丁氏(Mrs. R.M.Mateer)与狄文氏(Ada Haven Mateer)混淆了。狄文氏是美国伝教士狄考文(Calvin Wilson ^{ママ}Matteer, 1836-1908)的継室夫人, 其著作有時署名“麦体雅”]

樽目録を阿英、陳鳴樹各氏のものとして並べてもらっている。恐縮のひとつことにつきます。

それにしても、ややこしい。西洋人の名前が漢訳されて、兄弟とその夫人たちが、上記の部分だけで4人も出現するからだ。宋莉華が批判するのは、今までの目録は狄丁氏と狄文氏を混同している点である。正しくは狄文氏でなければならぬことを強調する。

狄丁氏は狄楽播(R.M.Mateer)の夫人である。一方の狄文氏は狄考文(Calvin Wilson Mateer)の夫人だ。しかも、狄考文と狄楽播は兄弟という。姓が共通して

いるところからもそれと知れる。

くりかえす。作品『釦子記』の訳者は従来いわれてきた狄丁氏ではなく、狄文氏だと指摘する。宋は新しい事実を提出した。また、その原作も特定している。[莉華09-89] (英)梅理福 Mrs.Amy Le Feuvre“Teddy's Button” *4。

訳者は、阿英目録に見える狄丁ではない。そうすると周越然の記述も間違いになる。該書の実物を見ていない私が誤るのは不思議ではない。だが、阿英、周越然らは実物によって記述をしているとばかり思っていた。それらが違うとなると、なにか狐につままれた気がする。だいいち、狄丁氏と1字違いの狄文氏は、どこから出てきたのか。混同していると宋莉華というが、私はもともと狄丁氏しか知らない。混同しようにも、しようがない。阿英と周越然の目録のどこをみても狄文氏の姿はないのだ。

どこかフに落ちない。

『釦子記』を捜すことからはじめた。残念ながら日本には所蔵がない。また、探し方が悪いのかウェブ上でも見つけることができなかった。将来は出てくるかもしれないが、今のところはないのだ。とりあえず、ふたつの方向で調べることにした。

ひとつは、「狄」と漢訳されたマティーア(またはマティア)の人々について、その人間関係をさぐる。その過程で『釦子記』の書名がでてくるかもしれない。

もうひとつは、宋莉華論文の関連部分をよみなおす。宋の今回の指摘は、以前に説明していたことと違っているように

思う。いまいちど確認したい。

マティーア一家

主としてウェブを検索して情報を得た(参考文献を参照)。以下のようにまとめる。

父はマティーア(ジョン John Mateer, 1807-1875)、母がダイヴン(メアリ・ネルソン Mary Nelson Diven.1816-1896)だ。

両親はアメリカ長老派教会の信徒だった。かれらの子どもたちには、五男二女の合計7名がいる。わかりやすくするために生まれた順に番号をふり、生卒年も示す。以後、「長男」などを補って使う。

1 長男カルヴィン

Calvin Wilson Mateer. 1836-1908

2 長女ジェイン

Jane (Jenny または Jennie) Mateer, 1837-1926

3 次男ウイリアム

William Diven Mateer, 1843-1914

4 三男ジョン

John Lowrie Mateer, 1848-1900

5 四男ロバート

Robert McCheyne Mateer, 1853-1921

6 五男ホレイス

Horace Nelson Mateer, 1855-1939

7 次女リリアン

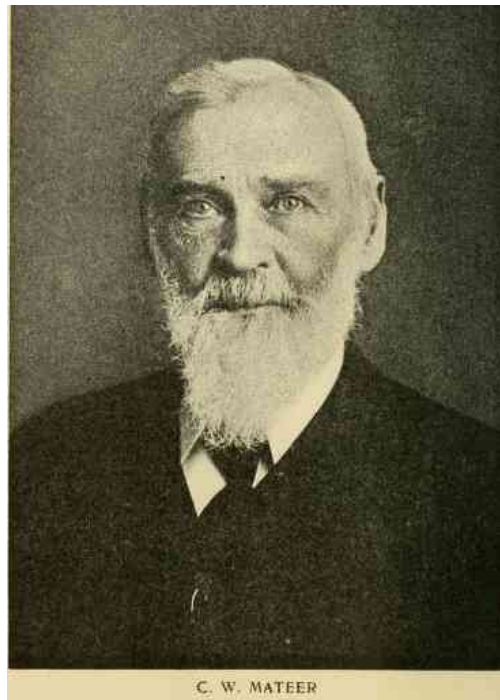
Lillian Ellen Mateer, 1858-1897

本稿に関係するのは、長男カルヴィン(漢名狄考文)と四男ロバート(漢名狄樂播)である。中国では、マティーアに漢



狄考文博士

1 2
3 4



Calvin Wilson Mateer 長男カルヴィン。写真2,3,4は同一人物にちがいない。写真1の肖像は両眼周囲の雰囲気は2,3,4と異なっているように見える

字の「狄」が当てられた。長男カルヴィン(考文)は2度結婚し、四男ロバート(楽播)も同じく2回結婚した。

長男カルヴィン

資料を整理して、ふたりだけの婚姻関係を以下に抽出する。数字は生年順のもの。女性につけた矢印は、結婚後の姓名を示す。逝去時の中国地名を歿年のうしろに補う。

まず長男カルヴィンからはじめる。

- 1 長男カルヴィン Calvin Wilson Mateer
狄考文 1836-1908(青島) 美国北長老会
- 1-初婚 ジュリア Miss Julia Ann Brown,
1837-1898(登州) 1862結婚 Mrs.Julia
Brown Mateer 狄邦就烈(列)*⁵
- 1-再婚 エイダ Miss Ada Haven, 1847-
1936(北京)1900結婚 Mrs.Ada Haven
Mateer 狄文氏、文愛徳、狄文氏愛
徳。美国公理会及北長老会

長男カルヴィンは、ジュリア・アン・ブラウンと1862年に結婚した。アメリカ長老派教会から中国山東登州(今の蓬萊市)に派遣されたのは、その結婚のあとだ。登州を中心に宣教活動を行なう。

登州において教育組織(登州蒙養学堂、登州文会館、のちの山東大学堂、濰県に移転して広文大学など)を創立し経営することに力をそそいだ。

その登州を約1年間留守にして上海の美華書館に責任者としてつとめたことがある。1870-1871年のことだった*⁶。

彼は数学、理科、化学にくわしく、中

国人向けに教科書を多数編纂した(『筆算数学』1894、『代数備旨』1899など。未見)。さらに外国人を対象にした漢語入門書(『官話類編 A Course of Mandarin Lessons, based on idiom』1898、『(官話)初学課 A Short Course of Primary Lessons in Mandarin』1901など)の編著多数がある。それらの多くは、のちに上海の美華書館で印刷された。

聖書の漢訳

長男カルヴィンについて、そのほかで有名なのは、聖書の漢訳作業に参加したことだ。

聖書の漢訳については、その歴史が長く、種類も多い。カルヴィンに関係する部分だけをかいつまんで紹介する。

聖書の漢訳は、中国各地の方言訳を除いて、主として文体によってみつつにわかれる。ひとつは文言(文語文、書き言葉)訳本。これを別に文理本(または深文理本)という。深いのがあれば浅いのもあって文字通り浅文理本と称する。半分が文言で半分が口語の折衷体だという。どうやら漢訳聖書、あるいはキリスト教関係書籍には、この「文理」という特別な表記が使用されるようだ。文理という共通点をひとつくりすれば、それらと異なるのがみつつめの口語体である。これは官話(そのなかの北方語。Mandarin、のちに国語、普通話とよばれる)を基礎にしている。

フィッシャー著『C・W・マティーア伝』253頁では、つぎの用語を使用する。原文「the classic, or Wen-li」は「文言または文理」だし、「the spoken, or Mandarin」

は「口語または官話」である*7。

1890年の中国において、英語の改訂訳聖書 (English Revised Version) をもとにして、それぞれ3種類の漢訳をつくること が企画された。深文理和合訳本 (Union Wenli Version)、浅文理和合訳本 (Union Easy Wenli Version)、および官話和合訳本 (Union Mandarin Version) の3委員会が 設立される。その官話和合訳本の責任者 に選出されたのが長男カルヴィンだ。官 話和合訳本 (和合本) は、のちに国語和 合本と呼ばれる。文言から白話 (口語を もとにした書面語) へ、1910年代後半の中 国言論界において、その主張は大きな流 れとなっていた。それが背景にあったの も官話和合訳本が生き残った原因のひと つだろう。和合本は、プロテスタントが 使用する漢訳聖書として現在に至ってい る*8。

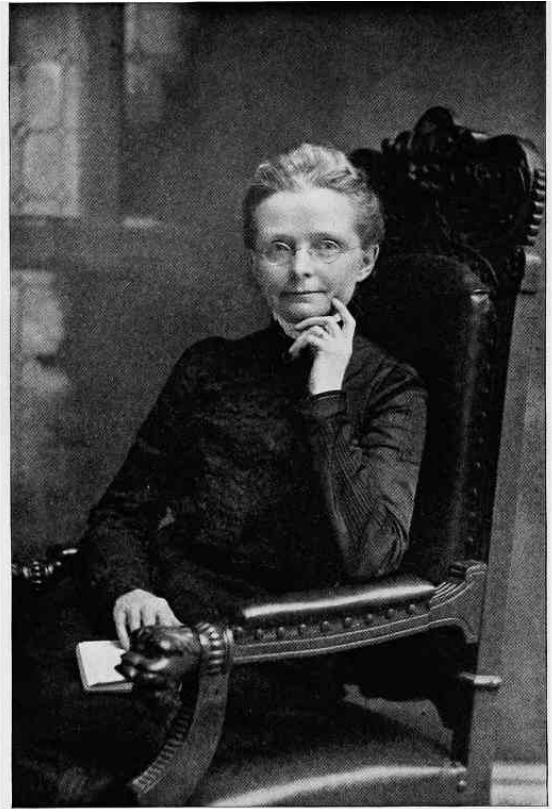
長男カルヴィンの再婚相手エイダ

本稿に関係する主要人物は、カルヴィ ンの再婚相手であるエイダだ。

結婚後の彼女を呼んで Mrs. Ada Haven Mateer という。その漢語表記に、狄文 氏、文愛徳、狄文氏愛徳などがある*9。 愛徳は Ada だし、そうすると狄文の 「文」は、Haven に当てはまる。「氏」は、 Mrs. に相当する。

エイダは、1900年、義和団事件に遭遇 し北京で籠城した経験をもつ。事件後、 山東芝罘 (今の煙台) で長男カルヴィン と結婚式をあげ、登州へ。1904年にはふ たりで濰県に移住した。

狄文氏について、宋莉華は、別々の箇



MRS. ADA HAVEN MATEER.

5 エイダ Mrs. Ada Haven Mateer

所で説明をしている。参考までに重複さ せ、まとめて示す。

[莉華10-12] アメリカ北長老派教 会の狄文氏 (エイダ・ヘイヴン・マテ ィーア Ada Haven Mateer) が翻訳した 『ボタン物語 (釘子記)』は、児童版 『天路歷程』と賞賛され..... [美国 北長老会狄文氏 (Ada Haven Mateer) 翻 訳的《釘子記》被譽為孩童版的《天 路歷程》.....]

[莉華10B-19] 狄文氏は、アメリカ 宣教師狄考文 (カルヴィン・ウィルソ ン・マティーア Calvin Wilson Mat^{ママ}teer, 1836-1908) の後妻であり、その著作 には時に「麦体雅 (マティーア)」*10

と署名した。[狄文氏は美国伝教士
狄考文 (Calvin Wilson Mat^{ママ}teer, 1836-
1908) 的継室夫人, 其著作有時署名
“ 麦体雅 ”]

狄文氏は、エイダである。すなわち、
長男カルヴィン夫人であることに疑問の
余地はない。

この長男カルヴィン夫人である狄文氏
が、はたして『釘子記』の訳者であるか
どうか明確ではない。いや、宋莉華は
実物を見て書いているから、そこに間違
いはないだろう。ただ、私は未見だから、
私にとっては明確ではないという意味だ。

マティーア一家の人間関係を知るだけ
では、十分ではないことがわかる。別の
方法をさがさなければならない。

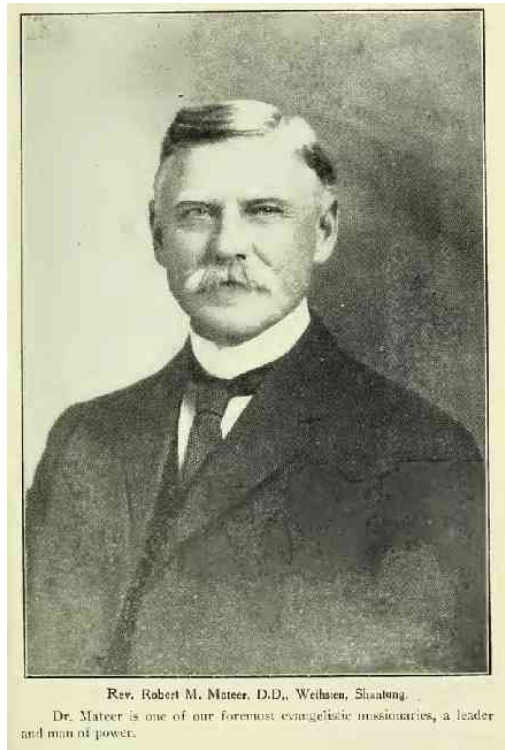
一方の狄丁氏はどうか。阿英と周越然
が、ふたりともに『釘子記』の訳者とし
てその名前を掲げた人物だ。

四男ロバートの再婚相手

四男ロバートの再婚相手がマッジ・デ
イクスンである。表にする。

- 5 四男ロバート Robert McCheyne Mateer
狄楽播 1853-1921(濰県) 美国北長老会
- 5-初婚 サラ Miss Sarah Archibald,
1851-1886 (濰県) 1882結婚
- 5-再婚 マッジ Miss Madge Dickson,
1860-1939 (青島) 1891結婚 Mrs.
Madge Dickson Mateer 狄丁氏、狄
珍珠。医師、美国北長老会

四男ロバートは、長男カルヴィンと同



6 四男ロバート

じくアメリカ長老派教会に所属し、中国
山東に派遣されている。彼は次女リリア
ンとともに、最初、登州にいる長男カル
ヴィンの元で漢語を学習し、布教をして
いた。その後、1881年、濰県(現在の濰
坊市)に移る。ここで40年近く宣教活動
に従事した。

彼の再婚相手が、医師であるマッジ・
デイクスンだ。彼女の漢名が狄丁氏であ
る。

宋莉華は、最近つぎのように説明する。

[莉華10B-19] 狄丁氏は、狄考文(カ
ルヴィン・マティーア)の3番目の弟
神学博士狄楽播(ロバート・マテ
ィア R.M.Mateer, 1853-1921)の夫人
であり、漢名を「狄珍珠」(マッジ・

D・マティーア Madge D. Mateer) という。[狄丁氏は狄考文の三弟 神学博士狄樂播(R.M.Mateer, 1853-1921) の夫人, 中文名“狄珍珠”(Madge D. Mateer)]

四男ロバートを「三弟」というのは、長男カルヴィンから見れば、という意味だ*11。本稿では四男ロバートという。

狄丁の「丁」は Dickson からきている。ではなぜ「狄珍珠」というか。マッジ(Madge)の原形がマーガレット(Margaret)であり、そのラテン語の意味が「珍珠 pearl」だからだ。

マッジは、狄珍珠の名前でいくつかの著訳書を出している*12。

狄丁名では次の書籍、私にとっては書名だけだが、をみることができる。(美) 狄丁編輯『風琴譜』美華書館(代印) 1913、同題 1920。印刷所から考えてマッジ(狄丁氏)の編著であるらしい*13。

宋莉華は、現在、狄文氏(長男カルヴィン夫人)と狄丁氏(四男ロバート夫人)を明確に区別する。なにも問題はないように見える。

以前、私は宋論文をもとにして樽目録に補足説明をしたことがある。だが、そのときの説明とは異なる。さきに「最近」と書いたのは、以前から一貫した主張ではないからだ。一貫といってもわずかに1、2年の差にすぎないが。

宋莉華の記述がブレる

記述が揺れている。四男ロバートの後妻についての説明が問題だ。宋は、最初

はつぎのように書いていた。

[莉華09-89] 狄文氏 (Mrs.R.M. Mateer) が翻訳した『ボタン物語(釦子記)』は、児童版『天路歷程』と賞賛され…… [狄文氏 (Mrs.R.M. Mateer) 翻訳的《釦子記》則被譽為孩童版的《天路歷程》……] (下線樽本。以下同じ)

どこかで見たことのある文章だ。本稿の前部分から引用してもういちど示す。

[莉華10-12] アメリカ北長老派教会の狄文氏(エイダ・ヘイヴン・マティーア Ada Haven Mateer) が翻訳した『ボタン物語(釦子記)』は、児童版『天路歷程』と賞賛され…… [美国北長老会狄文氏(Ada Haven Mateer) 翻訳的《釦子記》被譽為孩童版的《天路歷程》……]

宋は以前に書いた自分の文章を使ったから両者は似ている。狄文氏が『釦子記』を翻訳したところは一致する。後者には問題はない。しかし、前者の下線をほどこした箇所は、宋莉華説によれば間違いである。狄文氏は長男カルヴィン(Calvin Wilson Mateer 狄考文)の後妻だ。それを四男ロバート夫人にしている。

宋莉華は、その勘違いを注釈でもくりかえす。

[莉華09-89] 注 狄文氏 (Mrs.R.M. Mateer) は、すなわちマッジ・D・マ

ティーア(狄珍珠、Madge D.Mateer)であり、アメリカ長老派教会宣教師R・M・マティーア(狄樂播、R.M.Mateer, 1853-1921)の夫人である。[注 狄文氏(Mrs.R.M.Mateer)即狄珍珠(Madge D.Mateer), 是美国北長老会伝教士狄樂播(R.M.Mateer, 1853-1921)的夫人]

この注にかかけられる下線部分の「狄文氏」は、「狄丁氏」であろう。狄文氏と狄丁氏を取り違え、混同していたのは宋莉華自身にほかならない。

一步前進

狄文氏と『釦子記』を結びつける資料はないのだろうか。今は2次資料によらざるを得ない。

姚達兌氏からご教示をえた。姚氏は、雷振華纂『基督聖教出版各書書目彙纂』(漢口・聖教書局1918)の該当ページ(154、155頁)を複写で示された(電子メールによる)。該当部分を引用すれば以下のとおり。

釦子記 官話 狄文氏訳 一〇八
一九一〇 協和 每本 一角
釦子記 文言 狄文氏訳 九四
一九一〇 協和 每本 九分

同じ作品が使用言語によって「官話」と「文言」(ここはなぜだか文理ではない)にわけて刊行された。「協和」は、美華書館と華美書館(局)が合併した協和書局だ。改組合併の時期は1913年ころだと

文献にはあるが、それ以前から協和書局の名前で出版していたことになる。官話は108頁で片方の文言は94頁だ。それが理由なのか、定価もすこし異なる。

この記述から、『釦子記』の訳者が狄文氏であることに私は納得したのだ。

以上をふまえて、『清末民初小説目録』の該当部分は以下のように記述しなおした。

釦子記 10章

狄文氏訳 上海・美華⁷⁷書館1908

[莉華09-89](英)梅理福MRS.AMY LE FEUVRE“TEDDY'S BUTTON”。狄文氏(MRS.R.M.MATEER)即狄珍珠(MADGE D.MATEER), 是美国北長老会伝教士狄樂播(R.M.MATEER, 1853-1921)的夫人(樽本注:宋莉華は後に狄文氏の中身をMADGE D.MATEERからADA HAVEN MATEERに変更する)。線装版。協和書局1910。文言訳本由協和書局1910年出版

[莉華10-12]狄文氏(ADA HAVEN MATEER)

[莉華10b-19]此外,還可以訂正現存書目中的某些訛誤之處。比如阿英《晚清戲曲小説目》、樽本照雄《新編增補清末民初小説目録》、陳鳴樹主編《二十世紀中国文学大典》都収録了《釦子記》,編訳者都誤作“狄丁氏”,顯然是把狄丁氏(MRS.R.M.MATEER)与狄文氏(ADA HAVEN MATEER)混淆了。狄文氏是美国伝教士狄考文(CALVIN WILSON MATT⁷⁷EER,1836-1908)的繼室夫人,其著作有時署名“麦体雅”。

狄丁氏は狄考文の三弟 神学博士
狄樂播 (R.M.MATEER, 1853-1921) の
夫人, 中文名“狄珍珠”(MADGE D.
MATEER)。(注: 狄考文 CALVIN は長
男、狄樂播 ROBERT は四男)二人有親
属関係, 且都著作宏富。《釘子記》
為狄文氏所作

[莉華10b-165] 狄文氏 (ADA HAVEN
MATEER)

[莉華10b-285] 官話訳本、線装1冊、
協和書局1910年版108頁。浅文理訳
本、協和書局1910年94頁

また、別項目の同じ翻訳作品にも手を入れた。すなわち、多くの目録が狄丁氏訳としている事実がわかるようにしたのだ。

釘子記 10章

狄丁^ア氏編 華美書局 光緒34(1908)
MRS.AMY LE FEUVRE “TEDDY'S
BUTTON”

[莉華10b-19] 訳者は狄丁氏ではなく
狄文氏 (MRS.ADA HAVEN MATEER)

[越然118] 狄丁氏編とする。清光緒
三十四年華美書局印行

[阿英146] 狄丁訳編、光緒三十四年
(1908) 刊。出版社不記

[阿英178] 華美書局、線装本

[大典171] 著者不詳、狄丁編訳、線
装本、出版社不記

[編年232] 狄丁訳編、華美書局、光
緒三十四年

[劉晚282] 狄丁訳編

[慧敏487] 狄丁訳編

ここまで説明したから、今後は混同されることはないだろう。 罍

【記】姚達兌氏からは教示をいただいた。野間信幸氏からは文献複写の提供を受けた。感謝します。

【注】

1) 阿英『晚清戯曲小説目』上海文藝聯合出版社1954.8 / 増補版 上海・古典文学出版社1957.9 / 中華書局1959.5

2) 関連するものに Patrick Hanan (韓南) の論文がある。

“The Missionary Novels of Nineteenth-century China” *HARVARD JOURNAL OF ASIATIC STUDIES*, 60-2, 2000.12

Chinese Fiction of The Nineteenth and Early Twentieth Centuries, NEW YORK: COLUMBIA UNIVERSITY PRESS, 2004

「中国19世紀的伝教士小説」(美) 韓南 Patrick Hanan 著、徐侠訳『中国近代小説的興起』上海教育出版社 2004.5

3) そのほかの論文に略号をつけて示す。以下は略号を使用する。

[莉華09] 宋莉華「從晚清到“五四”：伝教士与中国現代児童文学的萌蘗」『文学遺産』2009年第6期2009.11.15

[莉華10] 宋莉華「近代来華伝教士訳介成長小説述略」『中国現代文学研究叢刊』2010年第6期(総第137期) 2010.11.15

- 4) 日本語訳をウェブで見ることができる。フェーヴァー著、本田増次郎訳『かたみのボタン』育成会1901.12.22。国立国会図書館近代デジタルライブラリー
- 5) Robert McCheyne Mateer, *CHARACTER-BUILDING IN CHINA; THE LIFE-STORY OF JULIA BROWN MATEER*, 1912。ウェブ上で初版を見ることができる。肖像写真などがいくつか収録されている。購入した1冊はのちの電腦印刷版General Books, 2009。写真は掲載されていない。文字化けあり。
- 6) 樽本「マティーア兄弟と美華書館」を参照のこと
- 7) フィッシャー (Daniel W. Fisher) 著『C・W・マティーア伝 CALVIN WILSON MATEER, FORTY-FIVE YEARS A MISSIONARY IN SHANTUNG, CHINA; A BIOGRAPHY』The Westminster Press, 1911. Bibliolife 複写版。『C・W・マティーア伝』と略す。漢訳がある。(美)丹尼爾・W・費舍著、関志遠、苗鳳波、関志英訳『狄考文伝 一位在中国山東生活了四十五年的傳教士』桂林・広西師範大学出版社2009.12。漢訳と略す。漢訳161頁の該当箇所を見る。「書面語形式, 即古漢語, 或称文理(即文言文 訳者按) 以及口語形式, 即官話」とする。原文にはない「書面語形式」は漢訳者が補足したもの。
- 8) 漢訳聖書については、主として次の論文によった。趙曉陽「基督教聖經的漢訳歴史」『維真學刊』2003年第2期。電字版。また、加藤昌弘「中国語訳「和合本」新約聖書(1907)について ギリシャ語底本の問題」『法政大学教養部紀要』外国語学・外国文学編 第115号2001.2。電字版。麦金華『大英聖書公会と官話《和合本》聖經翻譯』香港・基督教中国宗教文化研究社2010.7
- 9) エイダ著作の一部を示す。いくつかはウェブ上で見ることができる。大美国狄文氏輯著『女子須知』家学集珍卷1 上海華美書局 Methodist Publishing House 擺印1908(漢字扉)、1909(英語扉) Ada Haven Mateer, *SIEGE DAYS; PERSONAL EXPERIENCES OF AMERICAN WOMEN AND CHILDREN DURING THE PEKING SIEGE*, 1903. 初版は、ウェブ上で閲覧可能。肖像写真などがいくつか収録されている。そのなかにエイダの肖像がある。本稿に掲載した写真5は、そこからの引用。購入した1冊はのちの電腦印刷版General Books, 2010。写真、図は掲載しない。文字化けあり。宮田和子「The Chinese Recorder にみるグッドリッチ(富善)とその家族の記録」(『或問』第16号2009。電字版。83頁)が該書に触れている。「3.8. Siege Days:(義和団による)北京包圍の日々。マティーア夫人(Mrs.A.H.Mateer)による実体験の記録。アメリカ人宣教師とその家族は、英国公使館のチャペルに避難していた(CR35:425,426)」ほかに、

NEW TERMS FOR NEW IDEAS/ A STUDY OF THE CHINESE NEWSPAPER, SHANGHAI: American Presbyterian Mission Press, 1913

- 10) 博倫悌思著、麦体雅訳『天路日程』上海・広学会1928 [莉華09-96] Mrs.E.Prentiss, *Stepping Heavenward*, Mrs.A.H.Mateer (Ada Haven Mateer) 訳 [莉華10-5] [莉華10B-165] (美) 博倫悌思Mrs.E.Prentiss著, (美) 麦体雅(MRS.A.H.Mateer, 也作“狄文氏”)、許善濟合訳, 官話 [莉華10B-191] [莉華10B-328] 官話108頁
- 11) たとえば次のような例がある。「カルヴィン・マティーア博士と彼の弟ジョン [Dr.Calvin Mateer and his brother John]」(『C・W・マティーア伝』83頁) 部分は、漢訳では次のようになっている。「カルヴィン・マティーア博士と彼の二番目の弟ジョン [狄考文博士和他的二弟約翰]」(漢訳48頁)。原文ではたんに弟とあるのを、漢訳ではわざわざ番号をつけている。ここの「二弟」は、あきらかに三男ジョンを指す。
- 12) 特にそのひとつについて、ここで樽目録第4版の間違いを訂正しておきたい。「S0321* 莎士比亞的故事 狄珍珠訳 (宋莉華93) MADGE D. MATEER 官話訳、CHARLES LAMB 姐弟著 “THE HISTORY OF LITTLE HENRY AND HIS BEARNER” (宋莉華96)」と書いた。これはいうまでもなくラム姉弟の『シェイクスピア物語』が原作だ。原書を“THE HISTORY

OF LITTLE HENRY AND HIS BEARNER” としたのは(宋莉華96)すなわち [莉華09-96] にそうあったからだ。宋莉華は、『亨利実録』の原作名を混入させたらしい。原作を“TALES FROM SHAKESPEARE”とし、「宋は『亨利実録』の原作名を混入させた」と補足する。

- 13) 前出宮田和子論文(83頁)には、つぎのようにある。「3.10.風琴譜初階 *Grade Organ Instructor* : マティア (Madge D.Mateer) による。Presbyterian Mission Press 発行。わかりやすい官話で書かれ、初級から上級までをカバーするテキスト (CR42:51,52)」

【参考文献】

- マティーア一家については、つぎのものに主としてよっている。
- ウェブサイト SMOKY MOUNTAIN ANCESTRAL QUEST
- A RECORD OF AMERICAN PRESBYTERIAN MISSION WORK IN SHANTUNG PROVINCE, CHINA 1861-1913, 再版。電字版。肖像を引用した(写真3,6)
- MEMORIALS OF PROTESTANT MISSIONARIES TO THE CHINESE, SHANGHAI: AMERICAN PRESBYTERIAN MISSION PRESS, 1867 / 台湾・成文出版社1967影印
- 中国社会科学院近代史研究所訳訳室『近代来華外国人名辞典』北京・中国社会科学出版社1981.12。316頁
- 黄光域編『近代中国専名訳訳詞典』成都・四川人民出版社2001.12。584頁

顧長声「18狄考文」『從馬礼遜到司徒雷登 來華新教傳教士評伝』上海人民出版社1985.8。281-297頁 / 上海・世紀出版集團・上海書店出版社2005.1。242-256頁。2005年版を使用する。こちらには肖像がある。本稿に引用した(写真1)

《拊髀記》の原作

渡辺浩司

《叢刊》編輯部主編

『《中国現代文学研究叢刊》30年精編：文学史研究・史料研究卷』上海・復旦大学出版社2009.10

世紀転折時期的中国小説

-(加)M・D・維林吉諾娃文、伍小平訳
- “五四”白話文学の歴史淵源夏曉虹
- 關於編写中国近、現代通俗文学史的通信范伯群
- 清末民初小説理論概説陳平原
- 戊戌到“五四”時期文章体裁的变革 ...湯哲声
- 早期中国話劇形態与日本新派劇袁国興
- 稿費制度的確立与職業作家的出現
- 20世紀中国文学發生論之一 ...欒梅健
- 近代小説理論淺探王德祿
- 為什麼要有近代文学王 風
- “五四”新体白話の起源、特徴及其評價嚴家炎
- 晚清語境中的魯濱孫漢訳
- 《大陸報》本《魯濱孫飄流記》
- 的革命化改写李 今
- 战友・文友・畏友 蘇曼殊与陳独秀王建明
- 徐樹錚与新文化運動 讀書札記
- 二則(之一)陳思和
- 徐樹錚与新文化運動 讀書札記
- 二則(之二)陳思和
- 晚年林紓与新文学運動劉克敵
- 商務印書館与中国現代文学楊 揚

1

《小説月報》第四卷第三号(商務印書館,1913年7月25日-東豐書店1979年10月影印《小説月報 自創刊號起至廿二卷十二期止》を使用,影印本は奥付が無く,発行年月日は『清末民初小説目録 第4版』(樽本照雄編,2011年3月31日)による,以下同)に、《歴史小説 拊髀記》なる短篇作品が掲載された。次行に“日本押川春浪著 中華吳禱宣中譯”とあり、原作者はわかっている。しかし、原作が何かはこれまで不明であった。岡崎由美「武俠の黎明 - 押川春浪と近代中国武俠小説」(蘆田孝昭教授退休紀念論文集 編集委員会編『蘆田孝昭教授退休紀念論文集 二三十年代中国と東西文芸』東方書店,1998年12月12日,所収)も「原著待考」とし(163頁)、吳燕「『燈臺卒』をめぐって」(『清末小説』第33号,清末小説研究会,2010年12月1日,掲載)も「原著不明」とし(18頁)、『清末民初小説目録 第4版』F0678*も原作を載せていない。

その原作が判明したので、本稿で報告する。

原作は『巴里奇談 老愛國者』で、『英雄小説 大復讐』(押川春浪著,本郷書院,1912年9月21日)に収められている。国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで公開されており、本稿でもそれを利用した。なお、雑誌初出は、『中學世界』(博文館)の第十巻第六号(1907年5月10日),同巻第七号(1907年6月10日)に連載。

原作者の押川春浪は、本名を押川方存といい、1876年生、1914年没の小説家で、明治期に武侠冒険小説ブームを起こし活躍した。

訳者の呉禱は、生卒年未詳、晩清から民国初期にかけて小説等の翻訳や書家として活躍した。

2

『巴里奇談 老愛國者』のあらすじを述べる。

一. 私(日本人)がパリにいた頃、知り合いの一人に老年で医者 of ベルナア博士がいた。ある日、彼と散歩し、プロシヤ(プロイセン)・フランス戦争時の話を聞いた。彼は、凱旋門近くの小高い場所の家を指して、そこで体験した悲劇を語った。

当時、私(ベルナア)は町医者だった。開戦後、ウヰツセンブルグからフランス軍敗北の報せが届いた。その夕方、急患があり、私はその家に赴いた。二階の一室に80歳ほどの老人が倒れており、側で18,9歳の女性が泣いていた。老人はナポレオン1世時代の有名な騎兵士官、ジエーブ大佐で、女性は孫のアリーアだった。

アリーアの父は大尉で出征し、母は亡くなっており、今は祖父と孫の2人で暮ら



国立国会図書館近代デジタルライブラリー

していた。孫娘の話では、老人はこの戦争でフランスの勝利を信じ、自ら出征できぬのを悔しがるほどで、フランス軍の凱旋を見るためにこの部屋を借りていた。そして、敗報が届くと、すぐに倒れたとのことだった。

二. 回復の見込みは無いようだったが、孫娘を励まし、看護するよう言った。老人は3日間人事不省だったが、前線からフランス軍大勝の報(後に誤報と判明)が届くと、意識を回復し、話せるようになった。1時間話した後、部屋を出て、孫娘に会うと、彼女は涙を流していた。私が老人の回復を伝え、彼女は、フランス軍大勝は誤報で、実際は大敗だったと話した。私は、老人の命を守るため、健康

になるまで大敗は知らせずに、笑顔で接しようとする提案し、彼女もそうすることを決心した。

三．パリ全体は暗い雰囲気だった。翌日、私が部屋に行くと、老人は上機嫌であった。健康を回復していき、4,5日後には戦況について様々な質問をするようになり、孫娘と私は苦労して答えていた。老人は更に、壁にドイツ地図を貼らせ、小さなフランス国旗を作らせ、占領地にそれをピンで留めさせた。老人は毎日、そのピン留めを進ませながら、孫娘に進軍の様子を説明していた。

実際は、フランス軍は連戦連敗で、パリが包囲されるのもまもなくだと思われた。一方で、老人はフランス軍のメイヤンス占領を孫娘から聞くと、愉快そうにベルリン占領まで7日だと言った。

四．プロシヤ軍は逆に7日でパリに到達する所まで来ていた。外に出るとフランス軍敗北がわかってしまうので、老人を連れ出すわけにもいかず、どうすべきか考えている間に7日が過ぎ、パリは包囲されてしまった。私が悩みつつ部屋へ行くと、老人は真相を知らず、寝台に座り、孫娘にベルリンの上にフランス国旗のピンを留めさせていた。その後、ベルリン占領の報が届かないので、老人は気をもみ出した。私は孫娘と相談し、彼の息子(孫娘の父)の大尉からの偽手紙を作り、聞かせることにした。大尉は安否不明なのに、偽手紙を明るく読む孫娘の顔はやつれていた。数日後にも別の偽手紙を作り、気をもむ老人に読み聞かせた。老人は孫娘に返事を書かせ、フランス軍人の名誉

を忘れるな等と忠告を添えた。現状を何も知らず、愛国心から語っている老人の言葉に、私は涙が浮かんだ。

五．包囲により、パリは寒さ・飢え・病気にも苦しんでいた。その中、孫娘と私は老人のために、何とか上等の食料を調達した。偽手紙を聞かせた3日後、不意に城外に砲声が響いた。老人が何かと聞くと、私は、ベルリン占領の祝砲だと答えた。砲声は数日続いたが、近くに着弾しなかったので、老人は何も疑わなかった。

パリ落城前夜、老人との話を終え、部屋を出ると、いつもと異なる様子の孫娘から、父(大尉)の戦死を告げられ、プロシヤ軍が翌日、市内に進軍するとの話を聞いた。私が思わず大声を出すと、老人はそれを聞きつけ、フランス軍の凱旋と思込み、我々を部屋に招き入れ、上機嫌で「フランス万歳」等と言った。

翌日、部屋に行くと、老人は正装し勲章を付け寝台に座り、孫娘も着飾っていた。進軍の音が聞こえるや、老人はよろめきながらも窓際に行き凱旋門を眺めた。そこには、何とプロシヤ軍旗がはためき、プロシヤ軍が入城してきた。老人は一声うなると倒れて、そのまま息絶えた。孫娘は老人の遺体に抱きつき、動かなくなった。私が抱き起こすと、短剣で心臓を刺し、すでに亡くなっていた。

ベルナア博士は話し終わると、愛国者のために涙を注いで下さい等と言い、凱旋門の北を指して、老人と孫娘が眠る墓に行ってみましょうと話した。

一家三代の悲劇である。ナポレオン1世時代の名将ならば、老人はナポレオンの没落も体験しているはずなのに、戦争に憑かれ、敗北を忘却し過去を美化してしまったのだろうか。そう考えると恐ろしい物語でもある。

細かいことになるが、冒頭部分の老人の紹介で「彼のナポレオン一世が歐洲を席卷した時には、その股肱の騎兵士官であつた」(220頁)とある。また、ベルナア博士と孫娘によれば、老人は80歳あまりとのことである。プロイセン・フランス戦争が1870-71年の出来事なので、老人は大体1786-90年生まれとなるであろう。ナポレオン1世が帝位につくのが1804年、ロシア遠征に失敗するのが1812年なので、「歐洲を席卷した時」は、1786年生まれだとしても、老人は18-26歳となる。ちょっと若すぎると思う。故に、実際は90歳あまりだったのだろう。

3

中国語訳について述べる。

タイトルで、原作「老愛國者」を“拊髀記”としている。“拊髀”には「感激する、奮起する、嘆息する」等の意味がある。ここでは、物語の内容を踏まえ、“髀肉復生”も併せて、退役した老騎兵が肉のついた“髀”(太股)を“拊”(たたく)して嘆き悲しむという意味で、「悲しき老騎兵の物語」くらいであろう。

内容は、原作の展開どおりにしっかりと訳していると思う。状況を説明したり、表現を誇張したりする加筆が見られる。大きく加筆されている箇所を挙げる。

「四」の冒頭部分である。なお、孫娘のアリーアは、中国語訳では“麗娃”となっている。

實際この時普魯西軍隊は、連戦連捷の勢をもつて、最う一週間で此巴里へ到着する場所まで来て居たのである、危急は既に切迫した、私は寧そ今の内に、老人を田舎へ轉地させやうかとも思つたが、然し此家を出るが早いか、全國の様子は盡く分つて仕舞ふだらう、(234頁, 読点は原文のまま, 以下同)

其實普魯士軍隊。連戦連捷。法國所有城池。已經占去許多。再過七天。便要直逼巴黎。長驅而入。因此上這七天之内。普軍可到法京。法軍萬萬不能想入普京。你道法國這時可算危急麼。麗娃是知道的。一縷芳魂。剗地裏幾乎出了殼。暗想如今禍懸眉睫。與其儘在這裏。叫我祖孫兩人。身受那亡國慘禍。還不如趁早將祖父搬移到鄉間去。找個桃源。享受天倫之樂。不問存亡世事。豈不是好。叵奈祖父一經走出這重(?)家門之外。全國情形。立即察看明白。(9頁下, 句点は原文のまま, 以下同)

(實際、プロシヤ軍は連戦連勝で、フランスのあらゆる地域がすでに占領されていた。あと7日で、一気にパリまでやって来るであろう。それ故、この7日以内にプロシヤ軍がフランスの首都に着きこそすれ、フランス軍がプロシヤの首都に入城するなど全

く考えられないのである。フランスは今や危急の時と言えよう。麗娃はそれを知り、魂が自分から飛び出さんばかりであった。そして、今の戦乱が目前に迫っている下では、ここに留まり、私たち祖父と孫の2人とともに国家滅亡の悲劇に遭うよりは、早めに祖父を田舎に移し、戦乱の無い所を訪ね、楽しみを享受してもらい、国がどうなったかを尋ねさせなくする方が、いいはずだと密かに思った。ところが如何せん、祖父が外に出るや、国の状況はすぐにわかってしまうだろう。))

原作は、ベルナアが老人の疎開を考えたのだが、中国語訳は、孫娘が考えたことになっている。また、説明或いは文飾の加筆のために少しくどく感じられる。

誤訳を挙げる。戦勝の誤報で回復の兆しを見せた老人に対し、孫娘と私が真実を隠し続けようと決めた翌日の場面である。

次の日私は例より早く老人の家に行つて見ると、老人は昨日にも勝る上機嫌である、私の姿を見るや否や得意顔に、

『大勝利！佛國萬歳！未だ次の捷報は來ませんか。』と眼を上げて窓の彼方凱旋門の方を見た。(230頁、括弧は原文のまま)

到了第二天。我照例又到大佐家中探望。却見老人躺在牀上養息。神色很

爲清健。比昨日又勝幾分。待我進了屋子。也不知他瞧見我没有。非常得意的擡頭瞭眼。對着窗戶外面凱旋門那邊。自言自語道：“大勝咧！法國萬歳！以後可又有捷報傳來嗎。”(7頁下、コロン・引用符は補った)

(翌日になり、私はいつもどおり大佐の家に様子を見に行つた。老人はベッドに横になり休んでいた。顔色はとてもよく、昨日より少し回復していた。私が部屋に入った時、彼が私を見たかどうかはわからなかったものの、大変調子よさそうに頭を上げ、窓の外の凱旋門の方を向いて、独りしゃべっていた：「大勝だ！フランス万歳！その後も勝利の報はもたらされているだろうか。」)

原作は、老人がベルナアに話しかけているのだが、中国語訳は、独り言にしている。原作の「否や」を誤解したのかも知れない。

4

原作の単行本には、書名になっている『英雄小説 大復讐』、本稿の『巴里奇談 老愛國者』と併せて、『冒險小説 女侠姫』、『探検小説 幽霊小家』の4作が収められている。すべて初出は雑誌掲載で、『大復讐』は、『復讐』というタイトルで『文藝俱樂部』第13巻第10号(博文館,1907.7.1)に、『女侠姫』は、『少女世界』2巻3号(1907.2.1)-12号(1907.9.1)に*1、掲載された。

ここで、《拊髀記》と同時期の呉禱の

作品を見ると、《冒険小説 俠女郎》(《小説月報》3-10(1913.1),11(1913.2.25)掲載)と《英雄小説 大復讐》(《小説月報》3-12(1913.3.25)掲載)がある*2。原作はそれぞれ、上記の『女侠姫』と『大復讐』であり、『老愛國者』と同じ単行本に入っている。故に、呉禱は3作すべてを雑誌からではなく、単行本から翻訳したのであろう。

原作単行本の4作中3作が翻訳されていた。残りの『幽霊小家』が訳されていないか気になる。これについて、《張元済日記》(上冊,北京商務印書館,1981.9,未見 - 樽本照雄「研究結石: 呉禱の別名」(『清末小説から』10,1988.7.1)の7頁引用を使用*3)

に次のようにある。“ (1912)一月三十日十二月廿四 星期四 / 編訳 収吳丹初訳稿俠女郎、学生捉鬼記、拊髀記三種。共四十六頁。交許徹翁収*4。”ここに“学生捉鬼記”なる作品が見られる。そして、『幽霊小家』を見ると、冒険旅行をする一団中の学生2名が、昔、一家が殺され、それ以来、幽霊が出ると噂される家に行き、その正体の白い河獺を退治し、更に一家を殺す等した盗賊たちを捕まえる、という内容である。この内容は、“学生捉鬼記”(学生が幽霊を捕える話)の題名と一致している。したがって、“学生捉鬼記”の原作は、『幽霊小家』であろう。最後に表にまとめておく。 ☐

原作(押川春浪著『英雄小説 大復讐』本郷書院,1912.9.21,収)	呉禱の翻訳作品
英雄小説 大復讐*5	英雄小説 大復讐(小説月報3-12)
冒険小説 女侠姫	冒険小説 俠女郎(小説月報3-10,11)
探検小説 幽霊小家*6	学生捉鬼記(未発表)
巴里奇談 老愛國者	歴史小説 拊髀記(小説月報4-3)

【注】

- 1) 『女侠姫』の掲載誌は、『清末民初小説目録 第4版』X0252*による。
- 2) 前掲呉燕論文では、『俠女郎』について、「『小説月報』三卷十二号に発表され」(17頁)と掲載号を誤る。また、その原作について、「押川春浪著、『冒険小説 女侠姫』、『東洋武侠団』博文館1907」(17-18頁)とするが、『英雄小説 東洋武侠団』(文武堂,1907.12.15 - 国立国会図書館・

- 近代デジタルライブラリーでの公開版を利用、博文館は印刷所及び発売元)には、書名作品のみを収めており、『女侠姫』とは無関係である。
- 3) 同樽本論文では、押川春浪を「押川春郎」(7頁)に誤る。なお、やはり呉禱について論じた、沢本香子「書家としての呉禱」(『清末小説』32,2009.12.1,掲載)に、呉禱の翻訳活動時期に関して、「1913年の『小説月報』に「(冒険小説)俠女郎」を3回

連載したのを最後に翻訳作品は発表していない。」(110頁)と述べる。上述のとおり、《侠女郎》は連載2回である。また、同作掲載以後も、《大復讐》、そして《拊髀記》を発表しており、同作が最後ではない。

- 4) 1912年12月24日が新暦ならば、火曜日、旧暦では十一月十六日であるし、1912年1月30日を新暦とするのは、原作『大復讐』の刊行年月日1912年9月21日から見て、ありえない。一月三十日が旧暦ならば、新暦は1912年3月18日、十二月廿四が旧暦ならば、新暦は1912年1月11日で、ともにありえない。故に、冒頭の“1912”は誤りで、正しくは1913年であろう。1913年1月30日(新暦、木曜日) = 十二月廿四(旧暦)。但し、原著の誤りか引用の誤りかは不明。
- 5) 前掲岡崎論文は「『英雄小説 大復讐』(一九一一年)」(163頁)と刊行年(或は雑誌掲載年)を誤る。また、『清末民初小説目録 第4版』D0052*「大復讐(英雄小説)」項には、「岡崎由美は押川春浪『英雄小説 大復讐』本郷書院1911とする」とある。なぜか「本郷書院」を書き足すものの、刊行年の誤りはそのままだにしている。
- 6) 雑誌初出は、『少年世界』(博文館)の第13巻第12(1907.9.1),13(同年10.1),14(同年11.1),16(同年12.1)号に連載。なお、単行本『英雄小説 大復讐』の著者「ハシガキ」に「『大復讐』は……曾て『文藝俱樂部』に

載せたの、『女侠姫』其他は『冒険世界』や『少女世界』に掲載したものである」とある。しかし、『冒険世界』に掲載した作品は無かった。

補) 樽本照雄「研究結石：呉構の別名」について、著者でもある本誌の樽本主編より、該文は『清末小説研究論』(清末小説研究会,2005年8月1日)に収録しているとの御教示をいただいた。感謝申し上げます。なお、言及した「1912」はそのままで、「押川春郎」は2か所の誤りのうち、1か所は「浪」に正されているが、もう1か所は誤ったままである(82頁)。また、『小説月報』3-10の発行時期についても御教示をいただいた。感謝申し上げます。

【参考文献】

- 伊藤秀雄『明治の探偵小説』晶文社、1986年10月 双葉社版(2002年2月20日)を使用
- 教育ジャーナリズム史研究会編『教育関係雑誌目次集成 第1期・人間形成と教育編 第4巻』「中学世界(1巻1号~13巻16号)」日本図書センター、1990年6月25日
- 教育ジャーナリズム史研究会編『教育関係雑誌目次集成 第1期・人間形成と教育編 第6巻』「中学世界(25巻1号~31巻5号)」日本図書センター、1990年6月25日

本誌第106号は7月1日公開予定

傅兰雅“时新小说”征文参赛作者考

(一)

姚 达 兑

按：英国传教士傅兰雅（John Fryer, 1839-1928）于光绪二十一年（1895）在《万国公报》、《中西教会报》、《申报》等新闻纸，广发布告，征时新小说（或新趣小说），求时人出谋划策，以治时弊三端（时文、鸦片、缠足），务使国富民强。征文所得参赛作品2006年被发现于柏克莱加州大学东亚图书馆，2011年由上海古籍出版社原文影印出版，计有十四册，录入作品一百五十部整。傅兰雅小说竞赛作品非仅此一百五十部，傅兰雅收到的作品一百六十二部，现已遗失十二部，如获第一名的茶阳居士，其作竟然无存。此次征文的流亚，已知有詹熙著《花柳深情传》（或名《醒世新编》）和西泠散人著《熙朝快史》两书*1，估计在此之外还有一些作品受到小说竞赛的影响。这些作品和作者，虽然并无参赛，理应归与获奖作者同类。韩南（Patrick Hanan, 1927-）先生曾论，“虽然《熙朝快史》是一部写得很好的作品，且充分抨击了‘三弊’，但它却不一定能从傅兰雅那里

获奖，因为他肯定会反对它对梦兆和转世再生的运用。”*2傅兰雅征文自有其宗旨，乃是希望参赛者，须“用基督教语气而不是单单用伦理语气写作”。由于本次征文是傅兰雅出资，我们有理由相信，即使有请名家选评（我认为或许并没有如同时期的其它征文比赛那样请来诸如王韬、蔡尔康等名流作评审人员），傅氏对参赛作品获奖与否有其自己的审美旨趣和定夺的权力。获奖的作品，有不少并不合乎傅兰雅的要求。读者切切不可单以获奖名次而定衡参赛作品文学水平之高低，或者认为前几名就一定完全对榘傅兰雅的征文要求。例如很明显获第二名的詹熙，其著《澹轩闲话》之文学成就，就不如排在其名之后的一些作品，更比不上《花柳深情传》和《熙朝快史》两著。原因之一是比赛时限有定，作品属缴卷之作。许多作者都在其参赛作品中表明，他们对“三弊”的忧虑已久，傅兰雅的征文正中其下怀，而作品是在当年夏天匆匆援笔而就，未及细作打磨。

研究傅兰雅的“时新小说”，因为学者误以为这批参赛作品已经佚传，故而只能从历史脉络中对比各种征文比赛，钩沉其影响，推测其意义。现在这批材料“出土”，然而对其研究之困难也是非常明显。例如，《万国公报》和《中西教会报》上刊出的获奖结果中“至少三分之一的获奖者用笔名代替自己的真名。”*3从这批作品看，参赛者中也有不少是署笔名或斋号如青莲后人、格致散人、倜傥非常生、退思堂主人等等，根本难以清楚知道作者生

平，这给研究造成了极大的障碍。故而，研究傅兰雅时新小说竞赛的第一步，当然是对这些作者作一稽考。仆不揣谫陋，抛砖引玉，略考如下。

一、瘦梅词人

《甫里消夏记》十六回（《清末时新小说集第五册》）。获第十四名，奖金一元半。

瘦梅词人，原名朱兆基，字瘦梅，号理庵。清末民初间，曾有官职。（猜测：一、朱氏或为吴郡甫里人，故作《甫里消夏记》。同时代最著名的甫里人，无疑是王韬，他还是当时几次征文比赛的评委。二、《甫里消夏记》第一回自称作者另有《醒世金丹》、《富强切要》等书，或许实有其事也未可知。

朱兆基雅擅诗词，与潘飞声、邱炜萋（康有为弟子）等人有诗相酬。（一）、潘飞声《在山泉诗话》录其诗“**上海朱兆基字瘦梅**，亦曾寄题《飞素集》一律，乃次余韵者。诗云：‘盘螭明镜费磨镌，对影徘徊色相妍。映水一钩无赖月，飞花万点奈何天。年华锦瑟愁难遣，密字珍珠手自编。为刻遗诗传不朽，慰情泉下亦怡然。’闻瘦梅年少美才，风流自赏，此诗已刻集端。”*4《飞素集》（又《飞素阁遗诗》），是潘氏亡妻梁霭（1785-1911）所著。梁氏廿六岁早夭，然而其诗名颇显，受时人推崇。朱兆基为潘氏亡妻《飞素集》题诗时，潘飞声仍说他“年少美才”，可知在参加小说竞赛时，他真是非常年轻。（二）、邱炜萋《续小说闲评》载“亡室

王孺人曩有《红楼梦咏》若干首，殁后余为理之，共存四首，即今刻入拙著《赘谈》者是也。己未之冬，乡居无俚，因亡室之旧作，发吊古之闲情，忍俊不禁，未能免俗，随意分咏，旬而得诗百绝句……今岁冬，徇同学之请，爰删其无关旨趣者半……同学辈遽刊布启，遍征题词。”*5寄来题诗的诗人三十四位（其中不乏名家如丘逢甲、潘飞声辈），名单（文中仅列出廿一位）之中便有“**上海朱理庵刺史兆基**”。王氏死于1881年，邱氏《红楼梦绝句》出版于1889年，朱氏题诗应在此后。题词者，多称布衣或秀才，唯朱氏被称“刺史”，因而清末民初间，朱氏曾有官职。（三）、朱兆基曾于光绪二十五年（1899）辑编有《八濛碑诗选》一卷，吉林大学图书馆现有铅印本藏本。*6

朱兆基与晚清其它小说家的交往。（一）、潘飞声、邱炜萋等人曾在《消闲报》上发表诗词，而与这两位诗人有交往的朱氏，也参与了《消闲报》的其它文学活动。周病鸳担任《消闲报》主笔时，“他（李伯元）先后积极组织过消闲社、消寒社、消夏社等松散的文学社团，并在正刊刊出‘消闲诗钟’、‘消闲联语’，按课序编排，并征诗征文，影响较大，参加者有李伯元、欧阳钜源、悦庵主人、**海上瘦梅词人**、秦焕章、小蓬莱山人、颐琐室主、娱琴客室、山樵子等”（祝均宙、黄培玮辑录《近代文艺报刊概览·消闲报》）。*7海上瘦梅词人，即朱兆基。（二）、《采风报》1899年11月10日有一则为人代书的广

告，乃朱兆基所写。“王养吾茂才，白门名下士也，工书博学，名重一时。今游沪上，诗酒流连，因索书者甚夥，爰为代拟润格，藉以广结翰墨缘也。……海上瘦梅词人**朱兆基**理庵氏代定。”*8代人拟稿一事，可推知朱兆基并不富有，可能还供职于《采风报》，至少与《采风报》有一定关联。而此报主笔乃吴趼人和孙玉声，两位作者皆是小说名家，或有交往也未可知。

(三)、《申报》主笔何桂笙曾荐其学生高太痴为《申报》编辑助理，高氏于傅兰雅小说征文的同一年(1895)，著有《梦平倭奴记》，此为甲午海战中方失败后，小说家的“泄愤之作”。*9何以甲午前后《万国公报》、《中西教会报》和《申报》等新闻纸上载有那么多多的征文？何以傅兰雅不惮自己的资金紧张，也要在“公车上书”之时，急不可耐地出资布告小说征文？*10当然是时机凑巧。所谓的时机，即是清日海战，清政府大败，而触发了民族危机感。事实上，这套《清末时新小说集》中，大部分作品都会或明或暗地涉笔写到甲午海战战败一事。如瘦梅词人的《甬里消夏记》第十五章写道，“其时杏生闻得中日失和，朝廷特命吴大人出师征倭，不觉功名念动。”*11高太痴与朱兆基相关，是他们两人都为陈耀卿的《时事新编》(1895)一书，写了序言。“陈耀卿《时事新编》刊登此作时曾加按语云：‘闻系长洲高太痴所作。观其笔汇酷肖此君。无论其确否，亟采选之，以快众人心目云尔，’然《新编》首有**朱兆基**、高太痴，

溪北闲渔、李责猷序，恐怕是因作品直指政府，担心罹祸，故作迷离恍惚之词。”*12由此知，朱兆基与高太痴、陈耀卿两人应是同事或知交。朱氏的序中称陈耀卿“主持沪报馆事……公暇之余，编纂是集”，可知陈氏应是申报馆的编辑。高太痴的序在朱氏的序前，可知高氏或年长于朱氏。

二、钟清源

《梦治三癩小说》五回(《清末时新小说集第十册》)，参赛未获奖作品。韩国吴淳邦先生已撰有一文细论这本小说。*13

钟清源，广东长乐巴色会教徒，客家人。*14长乐，1914年，更名五华县，现在隶属广东省梅州市。钟清源一家信教，被称为广东巴色会“钟清源、钟清耀家族”，家族所在地为现在的五华县双头镇。*15巴色会入中国后，易名为“崇真会”，取自“崇拜真神、崇拜真道”的意思。“基督教香港崇真会之前身巴色会，创立于1847年。瑞士巴色传道会(或称巴色差会Basel Mission)成立于1815年，属信义宗，设于瑞士的巴色城(Basel)，故以巴色差会命名。巴色差会于1846年5月派韩山明牧师(Rev.Theodore Hamberg)及黎力基牧师(Rev.Rudolph Lechler)到中国，11月在差会举行欢送会后乘船往香港，至1847年3月19日抵达，致力向操客家语和潮语的人宣教。”*16之所以引抄这段话，是因为钟清源与崇真会的关系非常密切，知之甚详。他曾在《万国公报》上为中国巴色会创始人之一的黎力基牧师作传述，*17后来还

写了《崇真会近二十年会务概况》、*18《崇真会历史》*19等文。巴色会（或崇真总会）在中国大陆的总会基点设于广东省龙川县（现属河源市）老隆镇。参加傅兰雅小说比赛的作者中，还有另一个来自巴色会的教徒，即是当地教众中最年长、德高望重的张志善。张志善参赛的作品是《鸦片说、时文说、缠足说》，见《清末时新小说集》第十三册。张志善属于广东巴色会传道书院，*20生活在老隆，参赛的作品署名“广东省惠州府龙川县传教生 张志善。”*21张道隆《老隆基督教崇真总会缘起》一文，记录了钟清源和张志善两人的归属地。*22从本次参赛的作者看，还有两位来自广东巴色会的刘真华和张声和（待续考）。

在傅兰雅“时新小说”征文之前，钟清源还获得过另一次征文比赛。“广学会通过《万国公报》举行的较大规模征文活动有三次。第一次在1890年，题目是：1. 问格致之学泰西与中国有无异同？ 2. 问泰西算术何者较中法为精？从1890年8月到1893年10月共有5位作者提交了十篇论文，这五位作者是：吉绍衣、朱戴仁、寓济逸人、钟清源。胡汉林。”*23第一题所论中西格致之学异同，是要引起时人讨论中西文化、学术之异同，核心是新儒家理学的“格致”与西方哲学社会科学的对比。针对此次征文，钟清源写了两篇文章，发表于《万国公报》。*24其中《格致之学泰西与中国有无异同》一文开篇即举《大学》“八条目首论格致”，又论说中国人惊异

于“西人之制造”，是因为不知泰西格致之学，转证“天下之物，莫不有理。惟于理有未穷，故其知有不尽，必使学者，即凡天下之物，莫不因其既知之理，而益穷之，以求至乎其极。”晚清中国知识分子回应西方挑战的理论，或返归自观，多是从理学出发而论。

钟清源在《中西教会报》上撰有几篇文章，署名“广东长乐巴色会钟清源”，依顺序略举如下：一、《论传道者之分》、《以诗谈道（并序）》，载《中西教会报》第五册，1891年6月（光绪十七年五月），署名“广东长乐巴色会钟清源”；二、《信徒受害何益于己及公会》，载《中西教会报》第六册，1891年7月；三、《耶稣为上帝子》，载《中西教会报》第七册，1891年8月。于此之外，钟清源还编辑出版了一书《星期布道成绩记》。*25再重申一次，讨论钟清源或者其他参赛作者的参赛作品，应当对作者生平和著作作互文性地调查。

1890年左右，《万国公报》、《中西教会报》和《申报》等报的几次征文比赛中，参赛的作者，隶属笔者博士论文中所论的“口岸文人”*26这一群体。从宏观的历史眼光看，时新小说的参赛作者，或与传教士过从甚密，或是来自教会学校，隶属某个教会组织，是传教士传教教育的结果。他们与梁发、王韬那些作为传教士写作助手的作者不同的是，他们是自己写作，而且已经愿意在他们的文章上直接署上大名（虽然从获奖的作者名字来看，还有近于一

半的人是用化名)。所以我认为，时新小说的作者是近现代文学史上的第一代新的作家群，意义非凡。因为非常明显地，清政府连番战败积弱难返，激起了他们的民族意识，他们自身的边缘地位等等因素，也使得他们抛弃了华夏文化中心主义的观念，融合中外，以求建立新的民族国家。这些笔者会在其它文章中再论。（“时新小说”作者考系列，待续……）

四

（中山大学中文系博士生，哈佛燕京学社访问研究员）

- 1) 韩南《新小说前的新小说——傅兰雅的小说竞赛》，见韩南著，徐侠译：《中国近代小说的兴起》，上海：上海教育出版社，2010年。第142、144页。光绪二十一年十一月（1895年12月），香港起新山庄十二回石印本，题“饮霞居士编次，西泠散人校订”的《新辑熙朝快史》
- 2) 韩南，第142页。
- 3) 韩南，第140页。
- 4) 潘飞声撰：《在山泉诗话》二卷，上海：广益书局，民国3年（1914）。收入何藻编：《古今文艺丛书》下，江苏广陵古籍刻印社，1995年，引文见第1625页。
- 5) 见一粟编：《红楼梦资料汇编》下，北京：中华书局，1964年，第402页。邱氏此札收入阿英编：《晚清文学丛钞 小说戏曲研究卷》，北京：中华书局，1960年。
- 6) 王荣国等主编；辽宁省图书馆，吉林省图书馆，黑龙江省图书馆主编：《东北地区古籍线装书联合目录》，沈阳：辽海出版社，2003年，第3241页。
- 7) 《李伯元年谱》，李伯元著：《李伯元全集》五，南京：江苏古籍出版社，1997年，第121页。
- 8) 王中秀等编著：《近现代金石书画家润例》，上海：上海画报出版社，2004年，第75页。
- 9) 阿英著：《阿英文集》，北京：三联书店，1981年，第398页。《梦平倭奴记》收入阿英编：《甲午中日战争文学集》，北京：中华书局，1958年，第127-134页。
- 10) 韩南先生认为，促使傅兰雅离开中国的原因，是因“更为世俗的东西——对于他自己的家庭和经济问题的考虑。”韩南，第132页。笔者曾就此问题，当面再次询问过韩南先生，先生答曰：傅氏急不可耐，是因时机使然。酬款需要一定时间，所以这次比赛不像是其它征文比赛资金来源于报馆或富商们出资，而是傅氏自己独力自钱，甚至不顾及此时个人的经济问题。
- 11) 周欣平主编：《清末时新小说集》第五册，上海：上海古籍出版社，2011年，第318-319页。
- 12) 江苏省社会科学院明清小说研究中心，江苏省社会科学院文学研究所编：《中国通俗小说总目提要》，北京：中国文联出版公司，1990年，第793-794页。
- 13) 吴淳邦《新发现的傅兰雅（John Fryer）征文小说〈梦治三癩小说〉》，载蔡忠道主编：《第三届中国小说戏曲国际学术研讨会论文集》，台北：里仁书局，第117-206页。
- 14) 周欣平主编：《清末时新小说集》第十册，第213页。
- 15) 式微编著：《耶稣基督在廣東客屬教會的恩典源流》，香港：葡萄樹傳媒有限公司，2011年，第一章；又见网页：<http://www.vinemedia.org/public/courses/character.php?id=240>

- 16) 王琛发著：《马来西亚客家人的宗教信仰与实践》，马来西亚：客家公会联合会，2006年，第121页。
- 17) 钟清源：《黎牧师力基行述》，《万国公报》，台北华文书局1968年影印合订本，第14729页
- 18) 任继愈主编，卓新平执行主编：《20世纪中国学术大典 宗教学》，福州：福建教育出版社，2002年，第285页。
- 19) 钟清源：《崇真会历史》，载金陵《神学志》1925年（11）第一期。见刘万全编写：《全国高等院校社会科学学报1906-1949年总目录》，长春：吉林大学出版社，1984年，第522页。
- 20) 巴色会传道书院张志善《杂事：景教释》，载《中西教会报》第8册，1891年9月。
- 21) 周欣平主编：《清末时新小说集》第十三册，第553页。
- 22) 张道隆《老隆基督教崇真总会缘起》，见政协龙川县委员会文史资料研究委员会编：《龙川文史 总第13辑》，1992年，第35页。
- 23) 王立新著：《美国传教士与晚清中国现代化近代基督新教传教士在华社会文化和教育活动研究》，天津：天津人民出版社，1997年，第406页。
- 24) 钟清源《泰西算术何者较中法为精》，载《万国公报》第五十五册，1893年8月（光绪十九年七月）。钟清源《格致之学泰西与中国有无异同》，载《万国公报》第五十六册，1893年9月，载《万国公报》，台北华文书局1968年影印合订本，第13854页，同期有艾约瑟、林乐知、天南遁叟（王韬）等大家文章。
- 25) 钟清源编：《星期布道成绩记》，1918年（民7年），铅印，北大图书馆藏。见《燕京

大学书报》，1932年第32期，第4页。

- 26) 笔者博士论文稿中写道：“何谓‘口岸文人’（或‘口岸文士’）？这是一个较为笼统的概念，我用以指称那些与传教士合作互动的低层的边缘的中国文人。口岸文人的这里的口岸，并不限于条约口岸，而且包括了像非大陆的口岸，如马六甲、巴达维亚、香港、澳门等城市。这些口岸文士”，多半没有在科举中获得高位，有也仅是秀才或举人，但是大多还能写作，因而不妨称为“文人”或“文士”。他们多数活动于口岸城市，身份复杂且多重，文化认同有时也前后矛盾，身世也与一般传统的文人不同。他们有的出身是传统文人，有的在教会学校中长大；有的是传教士的语文教师，私人助理兼圣经译助，有的定期为传教士杂志撰写文章。共同的一点是，他们都在不同的层度上与西方文明尤其是基督教有所互动。与传统的文人稍为不同的，口岸文人大多是走投无路、为生计才佣书以事洋人。这些口岸文人往往受过一定的儒家教育，未能获得科名，蹇蹇侘傺，遂出此下策。在他们的身上，可看到个人困境与儒家信仰的强烈冲突。他们一般为传教士作翻译、书面文件的润色和修改，或者被当成活字典和学习汉语的对象。若没有他们，绝大多数传教士著作不是不堪卒读，就是毫无艺术成就可言。……历来对于传教士群体的研究，可谓汗牛充栋，对他们的合作者口岸文人，则未有多研究。

清末小説から

野間信幸氏より資料の提供を受けました。感謝します
『現代中国』第10輯2008.1

李石曾的文化浪漫主義及其留法經歷葉 雋

閱讀林紆訓子書札記夏曉虹
林紆示琮兒書.....林鋼、林大文提供、夏曉虹积文

『現代中国』第11輯2008.9

代擬憲政奏折及其他.....梁啓超撰、夏曉虹整理
梁啓超代擬憲政折稿考夏曉虹

流動的教室，虛擬的學堂 晚清蒙學報刊中的文
化伝訊、知識結構与表述方式梅家玲

梁啓超与日語 以《和文漢讀法》為說...沈国威
現代性与記憶 五四対林紆文学翻譯的追憶与遺

忘関詩珮
文化転型的翻譯語体選択 以曾樸的翻譯实践為

例馬曉冬
越界之恋与現代性的欲望想像 論王韜《淞隱漫

録》和《漫遊隨録》的漫遊、言情和追憶
.....許維賢

『現代中国』第12輯2009.4

【書評】報刊研究介入理論熱点探討的可能性

評董麗敏的《想像現代性 革新時期的<小
説月報>研究》李 斌

『現代中国』第13輯2010.11

近代漢語“文学”概念之形成与發展.....鍾少年
兩部伝道の粵語小説 《俗話傾談》和《天路歷

程》李婉薇
民初小報中的“女學生黑幕” 以《勸業場》為

考察对象黄湘金

『中国現代文学研究叢刊』2011年第11期

(總第148期) 2011.11.15

論晚清白話文運動的“認同意識”困境.....王 平
從旧戲場到新“學堂” 白話報刊与近代戲曲改

良運動胡全章
《老殘遊記》与胡適的審美啓蒙理念.....劉東方

論清末女豪傑小説的產生..... 周樂詩

『出版史料』2011年第4期

(新総第40期) 2011.12.25

陸費逵創辦中華書局一百周年.....俞篠堯、沈芝盈
張菊老校書瑣記胡文楷

辛亥時期的先鋒画報：《真相画報》徐 立
辛亥文談 4 陳天華、朱執信的二編小説 / 引進

西方藝術的第一人 李叔同吳泰昌

宮坂弥代生 美華書館史考 開設と閉鎖・名
称・所在地について 『活字印刷の文

化史 きりしたん版・古活字版から
新常用漢字表まで』勉誠出版2009.5.15

楊 緒容 周桂笙与清末偵探小説的本土化 『文
学評論』2009年第5期 2009.9 電字版

朱 静 季李斐夫人与《喻言叢談》 清末民
初西方来華新教女伝教士文学翻譯的考察

劉樹森編『基督教在中国：比較研
究視角下的近現代中西文化交流』上海

人民出版社2010.1

任 增霞 日俄戦争与晚清時事小説 『明清小説
研究』2011年第4期(總第102期)

2011発行月日不記

鮑 震培 《鳳双飛》中的男性婉約 中国耽美
小説之濫觴 『明清小説研究』2011年

第4期(總第102期) 2011発行月日不
記

『清末小説から』第104号2012.1.1

商務版「説部叢書」研究の昔と今2 ...樽本照雄
《社會小説 人壽保險》の原作渡辺浩司

容懿美譯《人靈戰紀土話》考略姚 達兌
傅兰雅“时新小説”征文获奖作品序文鈔(下)

.....刘 德隆